



ぎふ労福協

岐阜県労働者福祉協議会 編集発行人／筒井和浩

vol.122

2024.1.1

岐阜市鶴舞町2-6-7
ワークプラザ岐阜内
TEL(058)248-6029
FAX(058)245-2410

【岐阜労福協機関紙】 連合岐阜・東海労働金庫・こくみん共済coop・岐阜県勤労福祉センター <http://www.gifu-rofuku.jp/>



岐阜県労働者福祉協議会
会長 筒井和浩

新年の ご挨拶

岐阜県労働者福祉協議会に集う会員の皆様、日頃から労働者福祉運動を支えていただいている関係団体の皆様、新年あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症の拡大は国民生活を一変させ、格差や貧困、社会の分断が深刻化し、コロナ禍以前から抱えていた日本社会の脆弱性が次々と浮き彫りになりました。感染症法上の位置付けが5類に移行され社会経済活動の回復は進みつつありますが、長期にわたったコロナ禍の影響は、貧困や格差の拡大をさらに深刻化させたことや、昨今の物価上昇による家計支出は生活をより苦しめていること等は、これからの自助による備えを更に難しくしています。今こそ公助のあり方を見直すとともに、共助の力を発揮することが求められていると考えます。

これは、SDGsがめざす「誰一人取り残さない持続可能な社会」や中央労福協が2030年ビジョンで掲げためざす社会像「貧困や社会的排除がなく、人と人とのつながりが大切にされ、平和で、安心して働きくらしの持続可能な社会」の実現に必要不可欠となっています。

岐阜労福協は、昨年一年間、ポストコロナ社会を見据え、加盟団体や関係する諸団体の皆様のご協力と各支部の協力もいただきながら、コロナ以前と同等な活動ができるよう対面を基本に、人とのつながりが担保できる取り組みを進めてきました。

2024年は、様々な世代の皆さんと「つながり」を広げ、労働組合と連携・協同し、労働者自主福祉運動などの共助の輪を広げていく必要を強く感じています。

今年の干支は辰ですが、本来の干支は十干と十二支を組み合わせた60種類からなり、2024年は、十干の「甲(きのえ)」と十二支の「辰」が組み合わさった「甲辰(きのえたつ)」です。甲辰は「春の日差しがあまねく成長を助ける年」と言われ、春の暖かい日差しが大地すべてのものに平等に降り注ぎ、急速な成長と変化を誘う年になるという意味のようです。コロナ禍で培った経験を活かし、新たな1年が大きな成長を遂げる年となるとともに、皆様方のご活躍とご健勝・ご多幸を心よりご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

岐阜労福協創立70周年 記念式典・祝賀会 開催

岐阜県労働者福祉協議会は、1953年9月18日に誕生し、岐阜県における労働者自主福祉運動をスタートさせました。本年、創立70周年を迎えることから、これを記念し9月27日(水)午後3時より岐阜市内のホテルグランヴェール岐山において、『岐阜労福協創立70周年記念式典・祝賀会』を開催しました。当日は、来賓と会員・役職員など、87名の参加による開催となりました。記念式典の冒頭、筒井会長の挨拶では、『年齢・性・国籍の違い、障がいの有無にかかわらず人と人がつながり、共助の輪を広げその力が発揮できる社会の実現に向け、中央労福協・各県労福協や労働者福祉事業団体との連携、連合・産別・各組合との意思疎通を通じ、「福祉はひとつ」を胸に、すべての活動をこれまで以上に充実していく』旨の決意が述べられました。来賓挨拶では、岐阜県から商工労働部 兼松次長、岐阜市から柴橋市長、連合岐阜から子安副会長、東海労働金庫から高田専務、こくみん共済coop岐阜推進本部から内藤本部長が祝辞を述べられました。祝電披露の後、寄付金の贈呈式が執り行われ、岐阜労福協と関わりのある、「認定NPO法人ぎふハチドリ基金」「消費者ネットワーク岐阜」「(一社)こどもがセンター」「NPO法人グッドライフ・サポートセンター」の代表に筒井会長より目録が手渡されました。寄付先を代表し、「認定NPO法人ぎふハチドリ基金」鳥居副理事長より感謝の言葉が述べられました。

記念式典終了後、祝賀会が執り行われました。改めて筒井会長より挨拶の後、中央労福協の南部事務局長、歴代会長の武田康郎氏、柴田和男氏より祝辞が述べられました。その後、筒井会長、南部事務局長、子安副会長、高田専務、内藤本部長による鏡開き、高田専務が乾杯を行いました。会場は、思い出話に花が咲き、皆さん笑顔が絶えず、和気あいあいとした和やかな雰囲気でした。4名の演奏家によるセッションで宴も酣となり、歓談の時を挟み、内藤本部長の中締め、櫻井事務局長の閉会の挨拶により宴は無事終了しました。この記念式典・祝賀会にご臨席いただいた皆さま、所用にて参加できなかった皆さま、岐阜県労働者福祉協議会に関わる全ての皆さまに、改めて感謝を申し上げます。



筒井会長の挨拶



記念式典の様子



70周年記念誌



演奏の様子



祝賀会の様子



鏡開きの様子

中部労福協 2023年度研究集会に参加

10月10日(火)～11日(水)大阪市「キャッスルホテル」において中部労福協主催の「2023年度研究集会」が開催されました。岐阜労福協からは、こくみん共済coop岐阜推進本部 内藤本部長他3名、全体では60名の参加による実開催となりました。冒頭、主催者を代表し中部労福協 可知会長の挨拶、開催地を代表し大阪労福協 田中会長の挨拶の後、2日間で以下の内容の講義を受講しました。

- 講義1 講 師：関西大学商学部 教授 杉本貴志氏
テーマ：「協同組合・NPOの連携で持続可能な地域社会を」
- 講義2 講 師：社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会 勝部麗子氏
テーマ：「生活困窮、社会的孤立を支える豊中市社会福祉協議会の取り組みから」
- 講義3 講 師：NPO西成チャイルド・ケア・センター 代表 川辺康子氏
テーマ：「子ども食堂の新たな挑戦『にしなり つながりの家』」
- 講義4 講 師：(公財)大阪社会運動協会常務理事 エル・ライブラリー館長 谷合佳代子氏
テーマ：「働く人の歴史を未来へ ～奮闘する日本一貧乏な労働図書館～」

講義1では、協同組合の誕生(18世紀)にまで遡り、ロッチデール原則が確認され、その後、協同組合原則に改定、さらには、協同組合のアイデンティティに関するICA声明による協同組合原則が再改定と、歴史を振り返りながら、その存在意義が再確認できました。講義2では、豊中市社会福祉協議会の取組が紹介され、困っている人で、手を上げられない人をどう助けていくのか、地域とのつながりをどうしていくのかについて、活動の紹介がされました。講義3では、にしなりの子ども食堂は、子供がごはんを食べるだけでなく、居場所も大切だということで「あったかいごはんを食べてほっとしながら、人とかかわりの中で成長していける場所」が「にしなり食堂」であること、周りから国がやることではと言われながらも、国がやらないから私たちがやっていると聞き、活動内容に感動しました。講義4では、エル・ライブラリーは、市民ボランティアと寄付で支えられている公益財団法人大阪社会運動協会が設置運営する労働専門図書館であると説明を受け、人と人をつなぐ場として、各種イベントを開いて学習と交流の場を提供していく組織とも紹介され、戦前・戦後の社会運動、労働運動の歴史を知ることのできる各種の貴重な歴史資料の現場を見ることができました。



中部労福協 可知会長の挨拶



芳野 友子会長

中央労福協 第66回定期総会報告

2023年11月22日(水)東京都内連合会館において中央労福協第66回定期総会がハイブリッド形式で開催されました。

岐阜からは、代議員として櫻井事務局長が会場、吉口事務局次長がWebにて参加しました。

第1号議案2022～2023年度活動報告、第2号議案2023年度会計決算報告・会計監査報告、2023年度一般会計収支差額処分(案)、第3号議案2024～2025年度活動方針(案)、第4号議案2024

年度予算(案)以上、全ての議案が満場一致で承認されました。

今年度は役員改選期にあたり、第5号議案として役員改選(案)が提案され、芳野会長、南部事務局長の再任と9名の副会長が選任されました。この後、以下のスローガンが採択され、伊藤副会長の閉会挨拶では、本定期総会で決定された活動方針にもとづき、労働者自主福祉運動を力強く進めるとともに、労福協の「2030年ビジョン」の実現に全力をあげて取り組む旨の決意表明があり、定期総会は終了しました。

大会スローガン

- ・教育費の負担軽減と社会的セーフティーネットの再構築を実現しよう!
- ・労働者福祉運動の連携を強化し、地域に共助の輪を広げよう!

2023年度 第1回岐阜労福協産別代表者会議開催

岐阜労福協では、中央労福協の「2023全国福祉強化キャンペーン」の一環として労働者福祉事業団体の事業推進と利用拡大に向けた取り組みを実施しています。11月21日(火)「長良川国際会議場」国際会議室において、各産別代表者15名の出席により、2023年度第1回岐阜労福協産別代表者会議を開催しました。岐阜労福協からは、会員産別に対して以下の7項目についての要請と、各労働者福祉事業団体から、利用拡大に向けた取り組みの要請を行ないました。



筒井会長の挨拶

1. 労働者福祉事業団体の広報・宣伝や事業推進の取り組みについては、以下の通りです。

- (1) 貴組織や加盟労組において、定期大会の運動方針に、労働者福祉事業団体の事業推進や利用拡大に関する方針の記載や補強をお願いいたします。
- (2) 貴組織や加盟労組の取り組みに関する理解を深めるために、定期大会の議案書を各労働者福祉事業団体の担当職員に渡していただきますようお願いいたします。
- (3) 貴組織や加盟労組と各労働者福祉事業団体との更なる連携や、利用促進に向けた取り組みをお願いいたします。
- (4) 貴組織や加盟労組の大会議案書・各種会議資料や機関紙等に、各労働者福祉事業団体の広告の掲載をお願いいたします。
- (5) 貴組織や加盟労組において、各労働者福祉事業団体の事業についての研修会や説明会を企画、開催していただきますようお願いいたします。
- (6) 労働者福祉運動の担い手の育成に向け、岐阜労福協や労福協支部が主催します各種セミナーやイベントへの参加とともに、貴組織においても教育研修の企画・実施をお願いいたします。
- (7) 上記の取り組みについて、貴組織から加盟労組にご周知下さいますようお願いいたします。

2. 各労働者福祉事業団体の利用拡大・促進の取り組みについては、以下の通りです。

- (1) 東海労働金庫
 - ①家計の見直し運動
 - ②資産形成(財形・エース預金・新NISA)
 - ③知らせる活動の強化(無担保ローン・スマート口座・ダイレクト)
 - ④生涯取引(59歳～65歳組合員+OB組合員への面談活動)OB組織への紹介
- (2) こくみん共済coop岐阜推進本部
 - ①労組役員啓発活動
 - ②ライフイベント推進
 - ③加入者推進
 - ④重点共済の取り組み(団体生命共済、住まいる共済、マイカー共済/自賠責共済、こくみん共済)
 - ⑤公式アプリ(マイページ)導入促進の取り組み
- (3) 岐阜県勤労福祉センター
 - ①ワークプラザ岐阜会議室の利用拡大
 - ②ライフサポートセンターぎふの取り組み周知

以上の各要請項目について全体で確認しました。



産別代表者会議の様子

第19回岐阜県社会貢献顕彰者追悼式の開催

10月20日(金)11:30より、岐阜公園内にある社会貢献顕彰碑前において「第19回岐阜県社会貢献顕彰者追悼式」を執り行いました。

本年9月18日に岐阜労福協創立70周年を迎えたこともあり、業者による顕彰碑の本格的な洗浄と清掃作業を行なった上で、参列者をお迎えしました。

追悼式にはご遺族の方10名と、顕彰委員会委員、労働者福祉事業団体職員の併せて26名に参列いただき、櫻井事務局長の進行により、厳かにすすめられました。

追悼式の冒頭、故人を偲び出席者全員で黙祷を捧げ、顕彰委員会を代表して筒井委員長より、現在顕彰碑には22名の方が奉納され、その功績を称えるための

追悼式であること、労働運動や社会運動、平和と民主主義を守る諸運動に貢献された仲間を顕彰し、その御霊を慰めると共にご遺族の方を励ますことを目的に活動を展開している旨の説明がありました。

また、追悼式に参列いただいたご遺族へのお礼と、御霊になられた方々の安らかなご冥福をお祈り申し上げます。

最後に、ご遺族と参列者全員が顕彰碑に献花を行い、追悼式を終了しました。

追悼式終了後、ご遺族にはささやかな食事をしていただきながら、ひと時でしたが、故人を偲んでいただきました。



やすらいの碑



筒井委員長による献花



ご遺族のみなさま

岐阜県へ要請書を提出

11月24日(金)岐阜県水産会館において、2023年度の岐阜県への要請書を提出しました。冒頭、岐阜労福協を代表し筒井会長の挨拶、要請書の受け渡しの後、櫻井事務局長より、今年度新たに要請する8項目について要請内容の説明を行いました。岐阜県からは三木商工労働部長より要請書受領の挨拶がありました。

※2023年度の要請内容は以下のとおりです。

1. SDGs(持続可能な開発目標)の達成と協同組合の促進・支援について
2. 奨学金制度の拡充について
3. 被災者支援と防災・減災の取り組みについて
4. 格差の是正、貧困のない社会に向けたセーフティネットの強化について
5. 消費者行政の充実強化について
6. 岐阜県労働者福祉事業費補助金の確保について

以上、合計6分野21項目です。



要請書の受け渡し

2023年度理念・歴史・政策セミナー開催

2023年12月11日(月)に「ワークプラザ岐阜」5階ホールにおいて、会員・各支部の役員をはじめ、若手役職員の合計77名の参加により、2023年度「理念・歴史・政策セミナー」を開催しました。



講師 山本幸司氏

今年度は、講師に労働者福祉中央協議会講師団講師の山本幸司氏をお招きし、「歴史的な分岐点にたつ世界と日本!時代に向き合い『労金・労済の原点に学び、志をもって労働者自主福祉運動を推進しよう!』～持続可能な暮らしと地域社会のために～」をテーマに講演をお願いしました。

最初に「私たちはどういう時代をいきているのか／歴史的な分岐点」について、核戦争や地球温暖化による環境が激変している「人新生」の時代であること、また、日本社会の基盤的条件の変化と没落し漂流する日本において、労働組合を最も必要としている人達に労働組合はなく、共助を最も必要としている人達はその輪の外に置かれている実態の説明がありました。2つ目には、「引き受けるべき日本の現実＝激変している社会構造」について、労働者階級の非正規労働者のうち、貧困状態のため、家計補助的に働いているパート主婦等最下層に新しい階級＝アンダークラスが生み出されたことや、人口減少・少子化・高齢化・生産年齢人口の減少による持続可能性を脅かす人口動態であること。3つ目には、「労働運動、協同組合運動は社会を変える力をもっているのか?」について、今の時代だから引き継ぎたい労働者自主福祉運動の歴史と教訓として、労福協・労働金庫・こくみん共済coopの生い立ちについてお話がありました。最後には、未来への大分岐の時代、持続可能な社会のために①持続可能な社会とは、若者・子どもの未来を奪わない社会②歴史に学び「目線は低く志は高く」③福祉は一つ!労働運動と協同組合運動のダイナミックな連携により持続可能な暮らしと地域社会を自分達の足元から創りだす④「トライ&エラー」をおもしろがる作風、文化が不可欠の4つのお話で締めくくられ、最後まで熱意のこもった有意義な講演でした。

勤労者チャリティー文化講演会開催

12月4日(月)18:30より「じゅうろくプラザ2階ホール」において、講師に「千原せいじ」氏を招き、「コミュニケーションは取ったもん勝ち」をテーマに講演をいただきました。今年度の開催にあたっては、コロナも5類に移行されイベント等の制限も解除されたことから、会員をはじめ一般募集もおこない多くの方に参加していただきました。

講師の選定にあたっては岐阜労福協および各支部役員の投票により、「千原せいじ」氏を選定しました。「千原せいじ」氏は、京都府福知山市出身のお笑い芸人、1989年NSC大阪8期生で、弟・千原ジュニアさんとともに「千原兄弟」を結成されました。1994年には、第15回ABCお笑い新人グランプリ・優秀新人賞と第29回上方漫才大賞新人賞を受賞されています。また、2018年にはメンタルケアカウンセラーの資格を取得して、2021年には、貧困、就学困難者への支援や国際協力の推進等を主な事業とする一般社団法人ギブアウェイを設立し代表理事になられています。講演では、「こんなところ?」というところまで世界各地を飛び回り、生活も文化も違うどんな人たちとも仲良くなれるコミュニケーションのヒントを旅のリスクや面白エピソードも交えて面白おかしくお話いただき、参加者からは、「講演を聞き、海外へ行きたくなりました」と感想を述べられました。



筒井会長の挨拶



チャリティー募金

※来場者数とチャリティー募金は以下の通りです。

来場者数：会員331名、一般・地域72名、
合計403名

チャリティー募金：85,873円

多くの方にご参加いただいたこと、募金にご協力をいただきありがとうございます。募金は被災地の復興支援に役立たせていただきます。最後に会場の設営・運営にご協力いただきました皆様には心より感謝を申し上げます。



講演の様子



会場の雰囲気と質問者



第59回岐阜県勤労者球技大会

ソフトボール県大会開催

2023年10月1日(日)各務原市総合運動公園において、第59回岐阜県勤労者球技大会ソフトボール県大会を開催しました。

雨のため、試合開始時間が30分程度遅れましたが、無事開催することができました。

今年は、各支部2チーム(中濃1チーム)と、前年優勝・準優勝チームの計11チームの参加による開催となりました。開会式では、筒井会長の主催者代表挨拶につづき、前年度の優勝「大垣市役所職員労働組合連合会」、準優勝「三菱電機中津川製作所営業部」による優勝杯・準優勝盾の返還を行い、10時より試合を開始しました。

決勝戦は、昨年優勝チームの「大垣市役所職員労働組合連合会」と飛騨支部代表の「株式会社ハウテック」ととなりました。結果、9対1で優勝は「大垣市役所職員労働組合連合会」の2連覇となりました。試合後には、「チーム全員が楽しめた」や「来年も頑張って出場したい」などの感想もいただき、県大会を終了しました。なお、来年は第60回大会となります。

【優勝】
大垣市役所職員
労働組合連合会



【準優勝】
株式会社
ハウテック

ボウリング県大会開催

11月12日(日)10:00より岐阜市内マースボウルにおいて、第59回岐阜県勤労者球技大会ボウリング県大会を開催いたしました。各支部で予選を勝ち抜いた上位2チームと、昨年の県大会優勝・準優勝チームの合計12チームにより熱戦が繰り広げられました。ヨーロピアン方式で、競技は1人3ゲーム、チーム4名の合計点により団体戦を行い、結果、優勝は前年に続き、カワボウ労働組合チーム(総得点2,312点)、準優勝はTYK労働組合(総得点2,038点)となりました。また、個人の部の優勝は、村瀬大河さん(TYK労働組合・総得点657点)、準優勝は加納裕二さん(カワボウ労働組合・総得点615点)、3位は堺ちえなさん(カワボウ労働組合・総得点577点)となりました。ハイゲームは、236点で個人の部準優勝の加納裕二さんでした。



【優勝】カワボウ労働組合



【準優勝】TYK労働組合

第26回岐阜労福協チャリティーゴルフコンペ開催

11月17日(金)、あいにくの天気の中ではありますが、恒例の岐阜労福協チャリティーゴルフコンペを「ぎふ美濃ゴルフ倶楽部」において開催いたしました。今年度は、労福協各支部・事業団体・産別代表による10チーム38名の参加での開催となりました。

結果、団体戦は、優勝:労福協西濃支部、準優勝:労福協岐阜支部、3位:労福協飛騨支部、となりました。個人戦は、優勝:林伸之さん(労福協西濃支部)、準優勝:小林智孝さん(労福協東濃支部)、3位:柳田亮介さん(労福協西濃支部)でした。

また、受付においてチャリティー募金のご協力のお願いをし、37,350円のご協力をいただきました。ありがとうございました。



【優勝】労福協西濃支部



【準優勝】労福協岐阜支部



【3位】労福協飛騨支部

謹賀新年

こくみん共済 NEWS

みんなが育てた
安心のネットワーク
それが「こくみん共済 coop」です

戦後もないころ。ひとたび火災が起きると生活が崩壊する時代。
そこで職場の仲間たちが少しずつお金を出し合い、
お互いをたすけあう火災共済をつくったことが、
こくみん共済 coop のはじまりです。

その後、共済の種類を増やし、さまざまな社会課題に向き合いながら、
生活協同組合として組合員の皆さんと活動を広げました。

今では加入件数2,913万件、
1年間にお支払いした共済金は3,455億円と
大きなたすけあいの輪に発展しています。

©2023年5月末現在

たすけあいの輪をむすぶ

こくみん共済〈全労済〉
経団連本部
全国労働者共済生活協同組合連合会
（岐阜県労働者共済生活協同組合）

「こくみん共済 coop」は営利を目的としない種類の非営利として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さんが安心して暮らすこととある暮らしを支えることを目的としています。この趣意に賛同した方々、出資金を払い込んで関係地味共済生活協同組合の組合員となることで各種共済制度もご利用いただけます。

公式キャラクター ビートくん
2322U006

あけまして
おめでとうございます

本年もよろしくお願ひ申し上げます
二〇二四年 元日

はたらくあなたの
いちばんそばに

はるさん

ワークプラザ岐阜

無料駐車場80台完備

各種研修や会議、イベント、セミナーなど皆さまの多目的な用途に応じて大小さまざまな研修室を充実した設備とリーズナブルな料金でご用意しております。

〒500-8163 岐阜市鶴舞町2丁目6番地7
TEL / 058-245-2411 FAX / 058-245-2416
URL <http://work-plaza.gifu.lekumo.biz/workplaza/>
駐車場 / 80台
休館日 / 12月29日～1月3日

会場名	面積(㎡)	収容人数
大ホール	305.87	210
大会議室	131.57	78
大会議室	123.62	78
中会議室	62.38	36
小会議室	404	37.16
	405	(12.5畳) 12

新春のお慶びを申し上げます

東 海 労 働 金 庫

こくみん共済coop 岐阜推進本部

(一社)岐阜県勤労福祉センター

専務理事 高田 勝之

本部長 内藤 浩

理事長 筒井 和浩